

第1回つくば市民白書2020 実行委員会 議事録案

○2019年4月13日(土) 10時~12時 ○市民活動センター

- *出席者から自己紹介： 平山英夫、児玉正文、川中浩史、原田泰、富樫茂子、野崎浩司、佐藤良子、酒井泉、山本千秋、横井美喜代 (以上10名)
- *欠席連絡があった人： 寺門宏倫、熊谷邦雄、佐藤皓、橋本佳子 (以上4名)
- *つくば・市民ネットから実行委員会参加は難しいが、議事録は欲しいとの連絡を受けた。
- *メーリング管理担当者(原田)から、つくば市民白書2012 実行委員会のメンバーにメールで連絡し、宛先不明や不参加の申し出があった方の報告があった。

1、「つくば市民白書2020」を作成するに当たって、3月30日に開催した相談会を呼びかけた1人の山本より、白書発行の決定と実行委員会立ち上げに至った経過の説明があった。

- ・2015年 運動公園に関する住民投票運動⇒建設反対が8割⇒運動公園白紙撤回
- ・2016年 住民投票運動記録集発行 「市民第一」の市長誕生
- ・2020年 それから3.5年、現市政を検証・評価する時期

「市民白書2020」では、市原市政から五十嵐市政に変わり、「何が変わり、何が問題なのか」市民に情報を提供する。「特定の候補」を応援するものではない。

2. どのような視点で点検・評価するかフリートークングをした。

- ・市長公約の300項目の点検、ロードマップ等があるが、白書の柱とはなり得ない。前回白書で問題提起したことでどれぐらい実現しているか
 - ・市民側から見てどうなのかが大事なのは。市民の側からチェックする。
 - ・印刷して発行することの意義、市民がいろいろなことを考える材料にして欲しい。
 - ・読み手が手に取り、読みやすいもの、読み手が求めているも、読み手側の視点が大事。
 - ・白書のページ数も、2012年版の半分70~100ページぐらい。冊子体の白書は要点のみ書き、詳しい文章や資料はホームページに掲載する方法もある。
 - ・「つくば市が今のまま進んだら将来どうなるのか？」市役所の意思決定について問題がある。
 - ・白書の出発点は「市民の目でみた つくばの今」今の市政がどうなっているのかを知ること
- 以上のような意見があった。

次回の実行委員会では、どういう白書を出すのか、各自意見をだして協議することになった。

main@tsukuba-hakusho.sakura.ne.jp (メーリングリストの全員に送付) に事前の意見は送って下さい。

3. 運営体制について

実行委員長 山本千秋 (029-869-0842) 事務局長 横井美喜代 (080-2048-1533) を決めた。メーリングリスト、ホームページの管理等は原田泰が担当する。編集委員・編集委員長などについては次回以降に決める。今後も、追加の実行委員を更に呼びかけていくことにした。

次回実行委員会 5月11日(土) 13:30~15:30 竹園交流センター 2F 小会議室2